



連 鶴

〈教育目標〉
学びたい
えん子
思いやる

H 2 3 . 7 . 2 1

なでしこ、魁皇、そして夏休み

校長 圓山文堯

18日の早朝、女子サッカーのワールドカップ決勝戦にくぎつけとなった。今まで勝ったことのないアメリカ相手にドラマチックな120分間を戦い抜いた「なでしこジャパン」の姿に。6年生が毎日視写している「日報抄」の一部を引用する。

前略・・・「あきらめない」と口にするのは簡単だが、人は苦しい状況が続くと、つい「もうだめだ」となる。ところが彼女たちは、ピンチを2度もくぐりぬけた。「あきらめなければ何とかなる」ということを驚異の粘りで実証してみせたのだ。・・・中略・・・延長戦後半残りわずかで、沢穂希選手が右足いっぱい伸ばして決めた同点シュートが鮮明によみがえる。誰もが「沢の右足」を持っている。でも、多くの人にはそれに気付かない・・・後略・・・。

そして翌日、大関「魁皇」が引退を発表した。

88歳の父親の楽しみは「大相撲」、そして、魁皇がお気に入りである。目が不自由なので画面の前に陣取って応援している。昔の相撲取りのような体型とケガや年令に負けないひたむきな土俵態度に共感して応援する人も多いのだろう。

本人はおとなしくて内気。プラモデルが好きで相撲は嫌いな少年だったという。中学を卒業するとすぐに入門。180cm、100キロを超える体格であったが、同期には花田兄弟や曙がいる。本格的な相撲経験がない中学卒の「たたきあげ」。持ち前の怪力で入幕した後、先のサラブレッドたちと違って不器用な魁皇は、三役昇進から大関まで手間取った。

同期の貴乃花親方は「技術も高い、支えたのは勤勉さでしょう」と評していた。体調が悪いと朝稽古を休む力士が多い中、魁皇は四股やすり足、ぶつかり稽古を欠かさなかったという。

弱音を吐かず黙々と23年間、38歳まで大関の座を守ったのである。最近になって「あれほど嫌いだった相撲が大好きになった」と明かしたという。

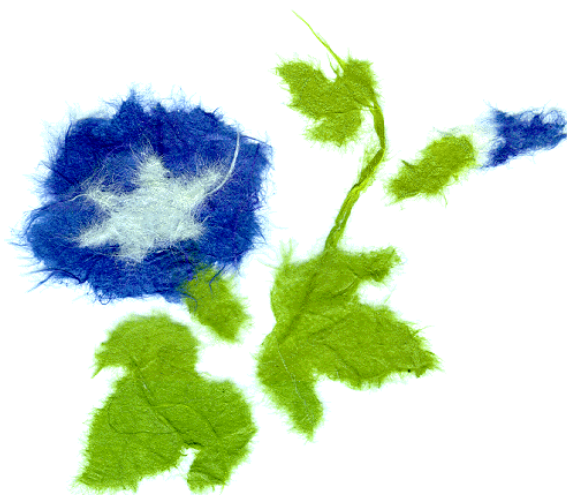
「何事にもあきらめない姿勢」「勤勉、実直」、震災を受けても前向きに取り組んでいる日本人への賞賛の言葉である。「団結力、献身、みんなのために」という言葉もそうだが、日本社会を支えてきた価値観を示す言葉がクローズアップされていることは喜ばしいものと思う。

さて、もうすぐ夏休みである。

小さい頃、夏休みに母の実家に預けられた。五泉の郷屋川というところである。朝起きるとラジオ体操前に猫の額ぐらいの玄関掃きと家の前の打ち水をするのがわたしに与えられた仕事だった。ハタヤさんのガタン、ガタンという音と染やさんの染料が目の前の川にきれいに流れていたのが思い出される。小径だったので仏壇からの線香の香りもただよっていた。日本人は確かに勤勉であった。

五泉に行くとき母は「人が見ていなくとも正直に一生懸命がんばるんだよ」と一言言って送り出した。

暑い夏を、子ども一人一人が「何事にもあきらめない姿勢」と「勤勉さ」で過ごしてもらいたいものである。



通知表を変えました

今年度、村上南小学校の通知表を改定しました。特徴的な点は次の点です。

- | | |
|-----|---------------------------------|
| その1 | 新学習指導要領の目標に準拠した観点別学習状況の評価を行います。 |
| その2 | 1学期から3学期までの学習の評価の観点を明らかにします。 |

その1について

今年度から新しい学習指導要領に基づく学習指導が始まりました。例えば、授業時数が増えたことや外国語活動が始まったことなども学習指導要領改訂によるものです。

新学習指導要領は従来からの「生きる力」を育むことを目指すとともに、学力の3要素として「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力」また「学習意欲」を明確化した内容となっています。

では、それらの内容を児童が確実に身に付けるためにはどうすればよいのでしょうか。それは、児童が**学習の目標にどれだけ到達できたかを絶対評価することが大切**となってきます。そうすることで、身に付くことが期待されている思考力・判断力・表現力の能力や技能の定着状況が分かるとともに、何らかの支援や対策が必要となってくるが見えてきます。

もちろん、昨年度までも教科の目標にどれだけ迫ることができたかを評価しお伝えしてきましたが、今回の改訂により、学力の3要素を明確化した観点に基づいた評価をすることが求められます。評価の観点は、次の4観点となります。

- | | |
|------------|--------------------------------------|
| 「関心・意欲・態度」 | ・・・語尾は「～している。」「～取り組んでいる。」になっています。 |
| 「思考・判断・表現」 | ・・・語尾は「～考えることができる。」「～考えている。」になっています。 |
| 「技能」 | ・・・語尾は「できる。」「する。」になっています。 |
| 「知識・理解」 | ・・・語尾は「分かる。」「理解している。」になっています。 |

ただし、「技能」に関しては、身に付けなければならない技能が複数ある場合（走る技能と泳ぐ技能は異なります）は1つにまとめることなく、それぞれの技能にかかわって評価しています。

また、総括的にとらえる評定を求めないこととされたことにより**教科の評定を記載しないこと**としました。



その2について

今年からは1年間にどのような内容で評価をするかを明らかにします。通知表に1学期から3学期までの評価の観点をすべて記載しました。

このことで何が変わるのでしょうか。

子どもが何を学習し何を期待され、何を評価されるのかを知ることができるようになります。そして、何を目標にして学習すればよいのかを自覚することができるようになります。

保護者の皆さんは、子どもの学習内容と評価基準を分かった上で家庭学習の様子を見守ることができるようになります。

その意味から言って、4月当初に1学期分の評価の観点をお示ししなかったことは、主旨に異なる点でありお許しを頂かなければならないところですが、2学期以降は、お示しした学習の評価の観点をもとに、子どもたちが未来を自覚しながら学習を進めることができるよう教育活動を展開してまいります。

「生きる力」を育むために、そして、子どもたちが未来を自覚して学習できるようにするために村上南小学校は通知表を変えました。